

## 【2023年度 学生交流委員会 事業計画(案)】

委員長校 : 神戸常盤大学

副委員長校: 神戸学院大学

委員校:

(委員校は、加盟校からの2023年度申請を踏まえ、事務局にて更新致します)

<目的> 委員会全体の「総論的な目的」(ねらい)

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携」の推進に向けて、以下の取組課題について事業推進を行う。

取組課題③「大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進」  
・年間を通し各委員校からの提案を協議し、大小問わず、魅力的、そして学生が地元地域への理解を深め、魅力を感じることができるプログラムを予算範囲内で可能な限り実施し、学生交流を活性化させることを目的とする。

上記取組を推進する体制の構築並びに、必要なプロジェクト事業は本委員会にて実施する。

<内容> 全体から見た、小プログラムの組み立て方について

取組課題③に対する「個別取組」は、下記の通り。

【取組1】テーマ型の学生交流プロジェクトの実施

他大学や地域・企業との連携・協働によるプログラムへの参加は、学生に大きな教育効果があるとの考えから、大学の枠を超えたテーマを設定した学生交流や活動を促進するプロジェクト全体を「WILL BEプロジェクト」の総称で位置付け、実施する(例: 地元企業・団体等と連携した取組など)。主体性をもって活動に取り組む学生を支援する仕組みを作ることによって学生の成長の場とする。

【取組2】加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施

加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報では、コンソHPへの記事掲載を計画・実施する。掲載文等を考えることで自主性や文章構成力を高めることを目的とする。地域で若者が活躍する姿を周知することにより、地域の活性化のための貢献活動に取り組む。併せてコンソの認知度を高める

また事業の実施体制として、ユニット制での実施を継続して実施する。上記2事業に基づく2ユニットのいずれにも全委員校が参加し、ユニットごとに企画立案から多くの加盟校が主体的に参画することにより、学生交流の実質化に繋げる。

<期待される効果> 下記すべてのプログラムを行うことで、得られる「総論的な効果」  
他大学の学生との交流、社会人との交流等の場を提供することによる効果は以下の通り。

【取組1】学生が地域・企業との連携・協働を通じた様々な社会貢献活動に、地元企業や自大学以外の学生と一緒に参加することで地域の魅力、または課題を直に感じ、理解を深め、そして解決策を自発的に考える効果が期待できる。

【取組2】参加した学生に様々な交流、広報活動を促すことにより、学生自らが他大学の学生と協働し、企画を実現することで主体性・実行力・発信力が向上する。また学生がメディア等を活用した周知に取り組むことで、自主性や文章構成力等を高めることを目的とする。併せてコンソの認知度を高める。

上記2つの取組により、コンソ加盟校の学生において本事業での経験が大学4年間の生活の充実に資する効果が期待できる。

課題③ 大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進		予算額
取組1	WILL BEプロジェクト 「テーマ型の学生交流プロジェクト」	1,010,000円
取組2-1	学生発信ブランディング 「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」	240,000円
取組2-2	学生発信ブランディング 「大学間連携組織を活用した県民向け防災施策PR動画作成業務」	1,000,000円 * 受託事業収入